

令和6年度 島根県立松江北高等学校 学校評価表（年度末報告書）

教育目標	高い知性と豊かな心情、強い意志を培い、心身ともに健康な人格の形成を目指す。
------	---------------------------------------

重点指導目標 1 すべての教科の授業、探究活動、学校行事、生徒会活動、部活動などあらゆる場面を通じて、「読む力」「書く力」「思考を広げる力」「伝える力」を育成する。

評価指標	【肯定的評価の割合 生徒：93.6% 保護者：78.0% 教職員:92.3%】	昨年度 【生徒：92.6% 保護者：78.2% 教職員:88.6%】
		一昨年度【生徒：84.6% 保護者：73.4% 教職員:82.5%】

	令和6年度の取組	評価指標【肯定的評価の割合】	自己評価及び改善策 （○…できている ○…改善は必要な面はあるが概ねできている △…特に改善が必要）	学校運営協議会の評価・意見
授業の充実	●授業改善 研究授業の実施 ●ICT活用研修 ●学習支援アプリの活用 ●探究学習の充実 普通科：個人探究 理数科：理数探究	●生徒は、授業で扱う内容だけでなく様々な事柄について、興味や関心を抱き、もっと深く知りたい調べたいと思い、自ら考えたり学んだりしている。 今年度 【生徒：80.2% 保護者：53.6% 教職員：73.1%】 昨年度 【生徒：82.9% 保護者：56.9% 教職員：68.2%】 一昨年度【生徒：73.5% 保護者：55.5% 教職員：59.6%】 ●生徒は、学校での教科の学習に、意欲的かつ継続的に取り組んでいる。 今年度 【生徒：82.3% 保護者：68.8% 教職員：82.7%】 昨年度 【生徒：83.3% 保護者：71.2% 教職員：81.8%】 一昨年度【生徒：77.9% 保護者：68.8% 教職員：86.0%】 ●生徒は、学校での教科の学習以外の教育的活動に、積極的に取り組んでいる。 今年度 【生徒：82.8% 保護者：75.2% 教職員：92.3%】 昨年度 【生徒：85.4% 保護者：77.3% 教職員：88.6%】 一昨年度【生徒：82.0% 保護者：74.8% 教職員：87.7%】 ●教員は、熱意をもって学習指導をしていますか。 今年度 【生徒：95.4% 保護者：76.6% 教職員：82.7%】 昨年度 【生徒：94.4% 保護者：82.4% 教職員：93.2%】 一昨年度【生徒：88.7% 保護者：79.3% 教職員：93.0%】 ●本校の進路指導は適切である。 今年度 【生徒：89.6% 保護者：79.4% 教職員：92.3%】 昨年度 【生徒：88.6% 保護者：79.1% 教職員：90.9%】 一昨年度【生徒：85.2% 保護者：78.5% 教職員：80.7%】	○各教科で研究授業を実施するだけでなく、授業改善週間を設けて教科の枠を越えて相互に授業を参観し、気づきを共有するなどして授業力の向上に努めることができた。対話的・協働的な学びのさらなる充実が必要であるが、その観点からの授業研究や実践をさらに充実させていく必要がある。 ○新たに1・2年生に学習支援アプリを導入した。課題として活用、到達度テストの実施、生徒個人の自主学習等で活用できた。他校より高い活用率であるが生徒の学力向上のための有効な活用を目指したい。 ◎探究学習の充実が図られ、各学科の特徴を生かした学びが展開されている。各生徒の興味関心を生かしながら探究活動を行うことができている。	○教員の熱意に関する保護者の肯定的評価が75%と低めであり、原因を明らかにして改善する必要がある。 ○授業でも知的好奇心を喚起する工夫が必要であり、探究的な学びの重要性を保護者に伝える工夫が必要である。 ○キャリア教育について、キャリアがはっきしていない生徒への対応を増やす必要がある。
キャリア教育の推進	●社会人講座・卒業生講話 ・出前講座 ●進路指導校内研修会 ●志望校別集会 ●国立大学・著名私立大学 説明会参加 ●オンライン進路講演会 ●希望者補講	●生徒は、進路指導で学ぶ機会を多く得ている。 今年度 【生徒：85.4% 保護者：77.3% 教職員：88.6%】 昨年度 【生徒：82.0% 保護者：74.8% 教職員：87.7%】 ●教員は、熱意をもって学習指導をしていますか。 今年度 【生徒：95.4% 保護者：76.6% 教職員：82.7%】 昨年度 【生徒：94.4% 保護者：82.4% 教職員：93.2%】 一昨年度【生徒：88.7% 保護者：79.3% 教職員：93.0%】 ●本校の進路指導は適切である。 今年度 【生徒：89.6% 保護者：79.4% 教職員：92.3%】 昨年度 【生徒：88.6% 保護者：79.1% 教職員：90.9%】 一昨年度【生徒：85.2% 保護者：78.5% 教職員：80.7%】	○進路志望実現のために生徒の主体性を大切にしながら説明会・講演会・希望者制補講を実施した。また、教職員による進路研修会や進路検討会を適宜実施することができた。コンソーシアムで進めている卒業生ネットワークを活用するなどして、キャリア形成プログラムのさらなる充実を図りたい。 ◎「総合的な探究の時間」について、昨年度から普通科はより生徒自身の生き方ありかたについて考えることができるものへと内容の改編を行った。その成果として、個人探究で扱ったテーマに関わる学問領域への進学者が出ている。	○家庭内で高校の学びについて話題に登る機会が少ないことが、保護者の理解不足の一因であると考えられ、学校の情報を積極的に発信していく必要がある
課外活動の活性化	●生徒会活動の活性化 ●部活動の奨励 ●各種研究大会・コンテスト等の参加推奨 ●校外での自主活動や各種プログラムへの参加推奨	●生徒は、部活動や委員会活動を通じて、自主性を発揮し、自己成長を図っている。 今年度 【生徒：85.4% 保護者：77.3% 教職員：88.6%】 昨年度 【生徒：82.0% 保護者：74.8% 教職員：87.7%】 ●教員は、熱意をもって学習指導をしていますか。 今年度 【生徒：95.4% 保護者：76.6% 教職員：82.7%】 昨年度 【生徒：94.4% 保護者：82.4% 教職員：93.2%】 一昨年度【生徒：88.7% 保護者：79.3% 教職員：93.0%】 ●本校の進路指導は適切である。 今年度 【生徒：89.6% 保護者：79.4% 教職員：92.3%】 昨年度 【生徒：88.6% 保護者：79.1% 教職員：90.9%】 一昨年度【生徒：85.2% 保護者：78.5% 教職員：80.7%】	◎昨年に引き続き文化系の活動の活躍が多く見られた。文化部の多くの部が県予選を突破して令和6年度総文祭へ出場を決めている。また、科学オリンピックや読書感想文での全国入賞をはじめとする個人での活躍も多くあった。さまざまな活動に主体的に取り組む生徒をさらに増やしたい。 △体育系の部活動への入部率の低下してきていることも踏まえ、様々な課外活動での活躍も考慮しながら、部活動のあり方について検討していく必要がある。	

重点指導目標 2 すべての生徒が、「自分が大切にされている」「失敗しても大丈夫」と実感できる生徒集団、教職員集団をつくる。

評価指標	【肯定的評価の割合 生徒：82.5% 保護者：66.8% 教職員:80.8%】	昨年度 【生徒：80.6% 保護者：67.3% 教職員:72.7%】
		一昨年度【生徒：72.7% 保護者：66.1% 教職員:68.4%】

	令和6年度の取組	評価指標	自己評価及び改善策 （○…できている ○…改善は必要な面はあるが概ねできている △…特に改善が必要）	学校運営協議会の評価・意見
人権意識の醸成	●人権教育HR ●人権講演会 ●人権教育研修 ●いじめアンケート ●いじめ防止対策委員会	●生徒は、他人を思いやる心を持って人に接することができる。 今年度 【生徒：96.0% 保護者：90.8% 教職員：86.5%】 昨年度 【生徒：94.4% 保護者：90.0% 教職員：70.5%】 一昨年度【生徒：93.0% 保護者：88.8% 教職員：80.7%】 ●生徒は、多様な価値観を認め、豊かな人間関係を築くことができる。 今年度 【生徒：93.3% 保護者：86.2% 教職員：96.2%】 昨年度 【生徒：92.4% 保護者：82.9% 教職員：84.1%】 一昨年度【生徒：90.7% 保護者：83.2% 教職員：89.5%】 ●生徒は、人権が保障され安心して生活できる学校である。 今年度 【生徒：93.6% 保護者：82.4% 教職員：94.2%】 昨年度 【生徒：92.4% 保護者：82.9% 教職員：81.8%】 一昨年度【生徒：90.1% 保護者：84.4% 教職員：87.7%】 ●生徒は、悩み事や心配事を相談しやすい。 今年度 【生徒：68.3% 保護者：60.4% 教職員：80.8%】 昨年度 【生徒：65.3% 保護者：60.6% 教職員：65.9%】 一昨年度【生徒：61.3% 保護者：60.4% 教職員：66.7%】	○いじめアンケートを各学期行い、いじめの早期発見に努めることができた。また、アンケート後にいじめもしくはいじめにつながるような言動に対する迅速な対応ができた。次年度も、学校全体の取組としていじめの防止及び発生時の対策にあたるため、いじめ防止対策委員会をしっかりと機能させたい。 ○人権講演会やホームルームでの人権教育で生徒の人権意識を高めることができた。また、教職員向けの研修も実施し、教職員自身の人権感を向上させることができた。生徒の実感把握に努め効果的な年間計画のもと取組を進めていきたい。	○「先生に相談しやすい」という項目について教員側の評価は高いが、生徒や保護者の評価は低めである。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの効果が十分に伝わっていない可能性がある。 ○生徒の不安や問題を相談できる方法を広げてみる必要を検討し欲しい。（対面、メール、SNSなど）
生徒相談・特別支援の充実	●特別支援・生徒支援委員会 ●スクールカウンセラー ●SSWとの連携 ●QUアンケート ●インクルーシブ教育の推進	●生徒は、特別支援委員会やスクールカウンセラー、SSWとの連携により、悩み事や心配事を相談しやすい。 今年度 【生徒：68.3% 保護者：60.4% 教職員：80.8%】 昨年度 【生徒：65.3% 保護者：60.6% 教職員：65.9%】 一昨年度【生徒：61.3% 保護者：60.4% 教職員：66.7%】	◎生徒支援委員会・特別支援委員会を定期的に開催し、不登校等の問題を抱える生徒への支援に学校全体で取り組めた。またSCやSSWとの連携を図って対応することができた。学校評価アンケートからも、生徒が安心して生活できる学校になってきていることが分かる。	○多様性が求められる現在、課外活動が減少するに従って、リアルな体験・経験が減っているため、人権意識の醸成が本当に達成できているか不安な面がある。

重点指導目標 3 社会人として期待される挨拶、言葉遣いなどのふるまいを、あたりまえの習慣として自然に行うことができるようにする。

評価指標	【肯定的評価の割合 生徒：87.8% 保護者：68.8% 教職員:36.5%】	昨年度 【生徒：87.9% 保護者：67.0% 教職員:52.3%】
		一昨年度【生徒：81.5% 保護者：67.1% 教職員:56.1%】

	令和6年度の取組	評価指標【肯定的評価の割合】	自己評価及び改善策 （○…できている ○…改善は必要な面はあるが概ねできている △…特に改善が必要）	学校運営協議会の評価・意見
基本的生活習慣の確立 規範意識の定着	●生活時間調査 ●担任による指導（面談等） ●情報モラル講座 ●薬物乱用防止講座 ●交通安全街頭指導	●生徒は、学校や社会のルールを守ることができる。 今年度 【生徒：94.8% 保護者：89.1% 教職員：71.2%】 昨年度 【生徒：94.4% 保護者：90.7% 教職員：70.5%】 一昨年度【生徒：94.0% 保護者：90.9% 教職員：86.0%】 ●生徒は、他人との関係や集団生活をうまくやっていくことができる。 今年度 【生徒：93.4% 保護者：88.8% 教職員：86.5%】 昨年度 【生徒：93.3% 保護者：88.2% 教職員：84.1%】 一昨年度【生徒：90.4% 保護者：88.8% 教職員：91.2%】 ●本校の生活指導は適切である。 （言葉遣い・ふるまい・交通マナー・身だしなみ） 今年度 【生徒：90.1% 保護者：80.1% 教職員：92.3%】 昨年度 【生徒：90.1% 保護者：82.7% 教職員：70.5%】 一昨年度【生徒：87.6% 保護者：81.5% 教職員：84.2%】	△学校や社会のルールについて、生徒は全般的に守っているが、服装、身だしなみについて改善が必要である。一方で様々な支援が必要な生徒が少なからずいて、指導に難しさもある。生徒の内面の理解に努め、適切な指導を行って改善を図りたい。 ○今年度、全学年一人一台端末の態勢となった。端末やスマートホンの使用方法について全般的には守られているが、一部に指導が必要な生徒もいる。継続的に指導していきたい。 ○通学時の自転車の乗り方に関する苦情は昨年度に比べて減った。一方で、車との接触事故が多かった。今後も交通安全について継続して指導していきたい。	○個々の生徒の事情に寄り添いながらも適切な指導をしていくと同時に、社会的なルールを守る姿勢についてはしっかり指導していくべきである。 ○基本的な生活習慣が維持されないと心の健康にも悪影響を及ぼすので継続的な指導をお願いしたい。 ○必要な生徒には早期から専門的な職種から支援を行うことが望ましい。 ○学習内容が多いため、生徒だけでなく教職員もこれまで以上にICT・SNS等を有効に活用すべきである。

重点目標以外で評価を求めた項目

	令和6年度の取組	評価指標【肯定的評価の割合】	自己評価及び改善策 （○…できている ○…改善は必要な面はあるが概ねできている △…特に改善が必要）	学校運営協議会の評価・意見
情報発信の充実	●ホームページ ●緊急連絡メール ●Google Workspaceの活用 ●学校だより ●学校案内パンフレット	●本校の情報発信は適切である。（ホームページ、学校通信「あかやま」、学年通信、各種「紙」によるお知らせ、緊急メール、Google Classroom） 今年度 【生徒：89.8% 保護者：82.8% 教職員：92.3%】 昨年度 【生徒：84.5% 保護者：81.5% 教職員：84.1%】 一昨年度【生徒：77.9% 保護者：77.5% 教職員：80.7%】	○学校ホームページについて、更新のペースについて改善が図られたが、生徒の活動報告についてより充実させていきたい。 ◎全校生徒がICT端末を持ったことで、Google Workspace for Educationを活用した情報提供が進んだ。より一層効果的な情報提供のかたちを作っていきたい。 ○学校案内パンフレットについて見直しを行い、学校の魅力が伝わる効果的なものとなった。デジタルコンテンツと繋げるなど、さらなる充実を図り生徒募集につなげた。	○「みらい共創チャレンジ」参加、「科学の甲子園」出場、読書感想文での連続全国入賞などの実績を生徒・保護者に積極的にPRしていく必要がある。 ○「グローバルスタディーズプログラム」に参加した生徒が学校説明会で知り、入学を決めた事例を聞いた。生徒募集のために情報発信が重要である。 ○学校ホームページはとても見やすく問題ない。
総合評価		●本校に入学して良かったと思う。（本校に入学させて良かったと思う。） 今年度 【生徒：86.9% 保護者：89.1%】 昨年度 【生徒：87.7% 保護者：92.2%】 一昨年度【生徒：80.1% 保護者：89.7%】		○令和7年度入試の志願倍率が1倍を割ったが、志願倍率に左右されことなく学校の目指すものに共感した生徒が入学してくれることが重要である。 ○少子化が進みかつ社会の変化が速い中、高校生として学ぶべき内容を将来を見据えてブラッシュアップするとともに、ヒトとして基本的な部分は継続して教育していく必要がある。